



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕

〒165-0027 東京都中野区野方 1-55-1 天門教会内 日本クリスチャン・アシュラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

罪の増し加わるところに

日本基督教団 引退牧師

有馬 歳弘



パウロ（サウロ）は彼自身の持っている熱心で激しく教会を迫害しました。「ダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。……『私はあなたが迫害しているイエスである。……サウロは地面から起

き上がって、目を開けたが、何も見えなかった』」（使徒言行録 9 章 1～9 節）。パウロは何も見えなくなったことがわかります。主イエスはこんなことを言っておられます。「イエスは彼らに言われた、『もしあなたがたが盲人であったなら、罪はなかったであろう。しかし、今あなたがたが『見える』』と言いつつ、あなたがたの罪がある』（ヨハネによる福音書 9 章 41 節）。

パウロは自分の確信、自分は見えていると自分の義で行動していました。しかし、神様の強い光に照らされて実際は何も見えない者であったことを経験します。そして神が遣わされたアナニヤが彼の頭に手を置くと、見えるようになったと言っています。その時目から「うろこ」のようなものが落ちた、と伝えています。自我（罪）の塊で何も見えなかったパウロは神様の光に照らされ、目からうろこが落ちるがごとくイエス様の十字架の救い、福音が力強く彼を捕らえたのです。後にパウロはこう言います。「わたしは、その罪人のかしら」（テモテへの第一の手紙 1 章 15 節）だと。他のところではこうも言います。「罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれた」（ローマ人への手紙 5 章 20 節）。

全ての罪から十字架の贖いによって私たちは

完全に救われています。しかし、罪（我）の深淵は強力です。聖霊の働きによって自我のうろこを落とされるたびに、主の十字架の救いが更に豊かに見えてきて感謝と喜び、賛美のところが花開きます。私は、最近特にこのことに吸い寄せられています。感謝です。

ティーリケという方がこんなことを説教しています。「あなたがたが、食前の感謝をささげる、そのときに、アーメンと、その終わりに言うのだけれども、その食前の感謝の終わりのアーメンが、まるでさあ食べようというような気持ちで言っているのではないだろうか。三度の食事を食べるときに、アーメンが、さあ食べよう、いよいよ食べることができるというような気持ちで言っているとするならば、これはどういうことになるか。つまり、三度の食事の、まったく意味のないような、小さな祈りであっても、その小さなすき間を通して、神の国の恵みに満ちた食卓を覗き見させるために神様ご自身が開けてくださった穴である。それを見ようもしないで、ただ食物だけを得さえすればよいということであって、その食物を与えてくださる、神の御手を見ようもしない。この御手に依り頼もうもしない。そういうことが、われわれの信仰生活にあるのではないだろうか」。少し長く引用しましたが、心に残りました。小さな食事をいただく、そのことにおいてもいかに自分本位であるかを思います。自我にのみ踏ん張っている自分が多いかを知らされ、自我を捨てていつそう主の豊かな恵みに目を開いていただきたいと願っています。まことに、信仰から信仰へ、生涯続く喜びです。こんなことを瞑想する毎日を過ごしています。

御言葉を体験させていただける恵みに与かりました。



霊想 わたしに帰れ

日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会

牧師 千代崎 備道



「あなたは、彼らに言え。万軍の主はこう仰せられる。わたしに帰れ。一万軍の主の御告げ—そうすれば、わたしもあなたがたに帰る、と万軍の主は仰せられる。」

ゼカリヤ 1:3

3回も「万軍の主は仰せられる」と言っているように、これは神様からの直接のお言葉が預言者であって、その言葉を伝えているのであろうと考えられます。「わたしに帰れ」というメッセージは、旧約聖書の預言者たちがみな同じことを言っています。神様は「帰って来い」と言っておられます。神の民であり神とともに歩んでいるはずのイスラエルの民は、神に背を向けて自分勝手な生き方をしているために、国が滅んでいってしまうわけですが、でも、神様はわたしに帰って来なさいと言っておられ、そうしたら、わたしもあなたがたのところへ帰る、と言われます。これが旧約の預言者たちの共通したメッセージでした。もちろん神様は「帰って来たら、そろそろわたしも帰ってあげようか」、でなく、神様のほうから帰ってくださるのですが、人間のほうはなかなかへりくだって帰ることができない、神様の前に低くなることのできない。そこでやがて神様は、ひとり子であるイエス様をこの世にお送りくださって、そのイエス様が言われた言葉が今年の城北アシュラムのテーマとなっています。

「わたしは戸の外に立ってたたいている。」帰って来いではなく、イエス様のほうから迎えに来てくださっているのです。そして戸を開いたなら「あなたがたと食事をもにする」と、家に入ってともに食事をすると言ってください。ともに食事をするとは、当時の人にとって親しい交わりを持つ仲間となることです。今は、私たちはコロナ禍にあって会食も簡単ではありません。でもイエス様はいつでも私たちを招いて親しい交わりを持てる家族としてくださる。私たちと親しい交わりをしてくださるとおっしゃってくださるとは、何とイエス様は恵み深いお方でしょうか。でも新約聖書の言葉だけでなく、旧約聖書の時代からずっと変わらないことは、私たちが帰ることを神様

は待っておられることです。どうやって帰ることができるでしょうか。

アシュラムではまず「開心の時」が行われます。その時に「ニード」を皆さんに語っていただきます。ニード「Need」とは何か、「want—欲しい」(自分の欲しいものを神様ください)ではないのです。もちろん神様は「求めなさい。そうすれば与えられます」と聖書に書かれているとおり、どんな祈りでも許していただけますが、でも、「欲しい、欲しい」だけでなく、「神様これだけは足らなくて困っているのです。私の人生、生活、仕事、これだけ足りないのです」と言うのです。足りない、なんて言ったならば、他の人からバカにされるかもしれない。だからそんなことは言えません、と黙っていて、自分の力で何とかできる、と普段の私たちはそう思っているかもしれませんが、でも行き詰まってしまって、「神様、どうしてもこれが必要なんです」と神様の前に認める、これがニードなのです。しかしニードを言うためにはまさにへりくだらなければできない。自分は弱いのだと認めないとなかなかそれが言えません。「わたしに帰れ」とは、神様から離れていたこと、自分勝手に歩んでいたことを認め、神様がともにいてくださらなければ自分は倒れてしまう、弱い者だと認めた上で、その神様の前に進み出て祈り求めることなのです。イエス様はこう言いました。「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです」。心が貧しいとは、日本では、心が卑しいと誤解されますが、聖書では貧しいとは力が不足していて、弱く苦しむ者のことです。自分は貧しい者、足りない者、と認めた人は幸いですとイエス様は言いました。なぜならば、神様にへりくだって求めることができるからです。

池の上教会は今年、「キリストのからだを建て上げるため」(エペソ 4:12)と標語を掲げスタートしました。まだコロナ禍の中ではありますが、コロナを乗り越えてさらに教会が建て上げられることを願っていますが、現実どうやって進めるか分からないのです。こんな状況の中で教会を成長させるためには神様からの知恵が必要なのです。神様、知恵を与えてください。どうやって教会を導いたらよいか、神様が知恵を与え導いてください、とそのことを必要としています。皆さんのニードは何でしょうか。

(第53回城北アシュラム「開心の時」の冒頭メッセージより)

アシュラムの祈りと開拓伝道

単立 下関ハレルヤキリスト教会

信徒 朔 恵美



私は青年時代を、恩師の鍋倉勲牧師(前九州アシュラム委員長)が牧会されていた鳥飼バプテスト教会で過ごしていました。教会では礼拝の時にはいつも「イエスは主なり！」と、三度

告白をするのが常でした。

それから年月は経ち、九州アシュラムで奏楽の奉仕を頼まれるようになりました。奏楽者としての義務感もありましたが、会場のカトリックの福岡黙想の家の、心のこもった美味しい食事が目当てでもあり参加するようになったのです。そうしているうちに、今から10年ほど前から自宅で日曜の礼拝が行われるようになりました。若い頃から、自宅が伝道所になることを願っていたのですが、いざ願いが叶い様々な人たちが集まって来るようになると、途端に未熟で無力な自分に気付かされることになりました。それからは主に期待して、本気でアシュラムに参加するようになりました。振り返ってみると、この10年で13名の方がイエスを信じて救われました。高齢で天に召された方が幾人もおられます。コロナ禍にあっても、礼拝は守られ、求道者の方々も導かれて来られます。これらのことは、決して人の力では出来ないと実感しています。まさに神様の御業であるとしか言えません。アシュラムに参加して、祈りは神様の御心を求め、御言葉に聞いて従うことこそが大切だと教えられました。

岡山牧師の紹介で数年前にドイツ旅行をした時のことです。青年時代に鳥飼バプテスト教会で共に過ごした安藤兄弟とばったり出会い驚きました。なんと安藤兄弟はドイツのミュンヘンで日本人教会の牧師をしていました。アシュラムを通して与えられた主の恵みと導きの不思議を思います。

主は生きておられます。イエスを主として祈る時、人知を超えて、神様が私たちに栄光を現して下さると確信しております。

アシュラム連盟ホームページ
「**日本クリスチャン・アシュラム連盟**」で検索

アシュラムの恵み

日本ホーリネス教団 池の上キリスト教会

信徒 吉田 章代



私は1985年のクリスマスに山根可弐先生より受洗の恵みに与かりました。

池の上教会はアシュラムが大変盛んで毎年2月11日に行われる城北アシュラムにはたくさんの兄弟姉妹が

参加されます。私も1996年頃から参加させていただいていますので、かれこれ26年も学ばせていただいていることになります。

アシュラムは一日の行事で、午前中はオリエンテーション、開心の時、祈りの細胞があり昼食をはさんで午後は静聴の時、福音の時、祈りの細胞、充満の時があります。ニードを持って参加し、先生方のメッセージを聴く時と、小グループで祈り合う時を繰り返し、聖霊による導きに委ね、神様が一人一人のニードにお答え下さるように、共々に祈り合います。

アシュラムとは自分の中の未解決の問題に光を当て、自分の考えによる解決策ではなく、神様ご自身の解決策をお教えいただく事のように思います。アシュラムの五大原則の中に①キリストへの明け渡し(開心)②み言葉への静聴と立証(静聴)③御霊の啓導と充満という三つの原則があります。原則①に従って自分の思いを捨て②に従って神様からの真理のみ言葉を頂き、③に従って御霊様のお働きにより神様から頂いた真理のみ言葉に満たされる時、不思議と心が明るくなり、「そうだ!、そうしよう!、それが良い!」と心が決まり、喜びと平安が湧いてきます。自分の至らない考えから離れられた事に嬉しさもおぼえます。神様の素晴らしさを思います。アシュラムは私にとって素晴らしい学びの場であったと思います。一年に一度ではなく日々の生活の中にも活かしていきたいと思います。

五十年ほど前の関東アシュラムのファミリーアワー「労作の時」でした。七、八十人くらいの参加者の中で一番若かった私は「パロ王」に任命され、戴冠式が行われました。そして参加者全員に労作清掃などを命じたことを思い出しました。

また、時の理事長高瀬恒徳先生の背中をお風呂で流させていただいたことも良い思い出となりました。まさにアシュラムは生活の中で行われている事のエピソードでした。H

ネット時代におけるアシュラム運動

編集委員 石井 寛

2 年前ごろからインターネットを利用した You Tube、LINE、Zoom などのツール(道具)が用いられ、礼拝のネット配信、相互連絡、一人ひとりが画面を通して顔を合わせての会議などがキリスト教会で用いられ始め、大きな力となっています。

しかしながらアシュラムは聖霊によって導かれ、階級、人種、年齢、性別など全ての垣根を越えての霊によるキリスト者の交わりです。神と人との交わりこそアシュラムの原点です。ですからいくらインターネットが盛んになってもアシュラムのコイノニアの代わりにはなりません。ただ、その一部でも利用し、「with コロナ」感染予防をしっかりとすうえで、密を避け、ワクチン接種の効果を期待し、アシュラムを再開されてはいいでしょうか。

今年 2 月には城北アシュラムがインターネットで会場が繋がれ、もちろん「祈りの細胞」などは中継できませんでしたが、技術的援助があったうえで基本的なアシュラムはすべて行われました。

スタンレー師が提唱されたアシュラム運動。日本で 70 年を超すキリスト教的運動が続いている働きはそう多くはありません。「ア・シュラム」、勤労の生活から一時離れて、「キリストへの明け渡しと服従」「御言葉への静聴と立証」「聖霊の導きと充満」「教会への奉仕と伝道」「神の国の体験と献身」をアシュラムを通して現していきます。

連盟全国理事会開催

第 25 回連盟全国理事会が 6 月 6～7 日にかけて市川クリエーションセンターで行われ、オンラインで結ばれた 2 名の理事、北海道から九州に至る所から参加された理



事、陪席、事務局 8 名、合計 10 名の出席がありました。

95 歳の横山理事長の開会礼拝、夕食後には川村理事によるセミナー「オンラインアシュラムの在り方について」。現在行われていますインターネットによる様々な集会和アシュラムの集会の用い方などをお聞きしました。

翌日は朝食の後、安藤理事の導きでルカ 12 章から静聴の時が行われ、その後、島理事司会で議事が始まり、前回理事会の諸報告確認とその後の事務局および担当者変更について確認しました。特にその役目を負ってくださっています天門教会と貴村かたる師の、苦勞に勝る主からいただく恵みのお証を伺いました

昼食後には引き続き横山勲理事司会により議事が行われ、函館、関東、九州など各地アシュラムの報告が続きました。2 月に行われた城北アシュラムでは初めての試みとして 3 会場がオンラインで結ばれましたが、これは、システムを構築し援助して下さった専門家がおられたからこそできたアシュラムでした。また事務局としての働きと連盟会計についての課題などがありました。そのために奉仕される方が予定されていることが報告され、これからの会計処理に期待いたします。また、この運動を積極的に推進するために若い牧師を始め信徒の参加を求め祈っていくこととともに、牧師同士のつながりなどを用いて働きかけていこうと決議しました。また今後の理事改選のための課題として、次回の理事会までに各地支部において推薦理事を求めていくことが決議されました。(H)

ご召天のお知らせ

植草榮一師(引退牧師) 関東地区アシュラム委員の一人で、いつも委員会、大会に積極的に参加されておりました。大会のファミリーアワーではいつもハーモニカの演奏を披露されていました。2 月に自転車で転倒し入院。その後、誤嚥性肺炎で 2 月 17 日、88 歳でご召天されました。

藁科茂師 大井川西キリストの教会牧師、アロ工食品会長。若くして主に献身し、牧会伝道の傍ら、健康食品のアロ工の研究開発に尽力されました。特にアシュラムへの情熱と献身には顕著なものがあ、多くの方々をアシュラムへと導かれました。3 月 29 日、92 歳でご召天されました。

編集後記

コロナの感染者数は全国的に減少傾向にあり嬉しいことです。一部のアシュラムは ZOOM 等で開催できましたが、兄弟姉妹が一堂に集うアシュラムは中止を余儀なくされてきました。これからは各地のアシュラムが再開されることでしょうか。私が委員長をしています九州アシュラムも 9 月に 3 年ぶりに開催できることを願っています。各地のアシュラムの活性化こそが、アシュラム運動の活性化につながります。そしてアシュラムに若い牧師、伝道師、信徒が加わることを切に願います。積極的にアシュラムに、親しい方たちを誘いましょう。(編集責任者 岡山敦彦)

事務局より

スタンレー・ジョーンズ博士に、ある夜半「何を第一に望むのか」と主イエスは尋ねられた。博士は「もつと祈る心をお与えください」と答えられた。主イエスによって博士は祈りの人となられ、日本にリバイバルの火を灯された。その火を絶やさないように各地区のアシュラムは燃え続けている。私もアシュラムの事務局を担う者として「もつと祈る心をお与えください」と祈り出した。(貴村)

アシュラム予告

- 横浜岡村教会
日時・7 月 9 日(土)～10 日(日)
- 西川口教会
日時・7 月 30 日(土)～31 日(日)
助言者・島隆三師
- 九州アシュラム(予定)
日時・9 月 18 日(日)～19 日(月)
場所・福岡県糸島市
- 第 58 回関東アシュラム
日時・9 月 19 日(月)～21 日(水)
助言者・島隆三師
場所・山崎製パン総合クリエーションセンター(市川) 参加者数 30 名限定
- 浦和別所教会
日時・9 月 24 日(土)～25 日(日)
助言者・西海満希子師
- 関西アシュラム 予定
日時・10 月 10 日(月) 大阪 OCC
助言者・島隆三師
- 志木教会アシュラム
日時・10 月 22 日(土)～23 日(日)
助言者・西海満希子師 予定
- 函館栄光教会
日時・11 月 3 日(木) 予定
- その他、開催が予定されていますアシュラムがありますなら、お知らせください。